

県政モニターからの提案の県施策への反映状況(健康づくり)

県政モニターからの提案		県施策への反映状況
【改善策①】既存事業(健康マイレージ事業、19のまちを歩こう事業)の改善		
1	既存事業が人に知られる工夫 事業そのものが余り知られていないようなので、市報等への掲載や人の集まる場所での宣伝など、人に知られる工夫をする。	<p>■ココカラげんき鳥取県推進事業(一部新規) あるくと健康!うごく元気!キャンペーン(とっとり健康ポイント事業) 予算額:6,080千円 「スポトピアとっとり推進事業」と連携し、自らの日々の活動がポイント化・ランキング化されることにより、楽しみながら継続的に活動できるよう事業の拡充を図る。</p> <p>■スポトピアとっとり推進事業 予算額:2,621千円(新規) 新たにスポーツ・運動に取り組みたい方を対象に、運動要素を取り入れたライフスタイルの推奨、誰でも参加しやすいスポーツ・運動の場の提供、とっとり健康ポイントの活用促進等を図る。</p>
2	健康マイレージ事業のマイレージ加算方法、加算対象項目の見直し ウォーキングより体力的にきついスポーツジムの加算点数が低いなど分かりにくいいため、加算方法を見直し分かりやすくする。また、マイレージ加算対象項目も、サイクリング、マイカー通勤以外の通勤方法、就職活動関連行動など健康増進、生活スタイルの改善、若者の参加促進等につながる項目を追加する。	
3	既存事業への参加意欲喚起方法の見直し 参加賞や完歩者への帽子進呈など、事業参加への動機付けとして期待できないものの廃止や、アプリ活用によるランキングや表彰制度、市町村対抗制度の導入など、事業への参加意欲をより喚起する工夫を行う。	
4	健康マイレージ事業参加対象年齢(18歳以上)の拡大 子供の頃から健康に関心を持ってもらうよう、対象年齢を引き下げる。	
【改善策②】広報のあり方の改善		
5	既存媒体での広報の効果の検証と新規媒体による広報の検討 県政だよりやマルっと!とっとり、大量多種のチラシの配布など、従来の手法の効果について、他自治体の広報誌も参考に検証すべき。その上で、SNSの活用やHP検索機能の工夫など新規媒体活用を検討するとともに、手元に保存しておきたくなるような広報の質の確保にも努めてはどうか。	
6	既存コミュニティ 自治会、老人会、PTAなど既存コミュニティを活用したロコミによる広報も推進してはどうか。	
7	広報内容を注目してもらう工夫 年代別のきめ細かな広報や運動をして得られるメリットではなく、運動をしないことにより発生するリスクを全面に出した広報もあるのではないかと。	
【改善策③】地域資源を活用した健康増進		
8	既存施設を活用したサイクリングロードの利用促進 平成25年の鳥取県バイシクルタウン構想策定や自転車活用推進法の平成29年施行など、健康増進に向けてウォーキングとともに自転車利用が推進され、地域資源であるサイクリングロードも県民に一層利用されることが期待されているところ。そのため、カフェやコンビニ等の既存の民間施設と連携してトイレ、休憩所、宿泊施設を確保するなど、ロード利用者の拠点整備が必要である。利用者のロコミによる宣伝効果も期待できる。	<p>■サイクリストの聖地鳥取県整備事業(サイクルツーリズム推進事業) 予算額:35,236千円(一部新規) 県内外のサイクリストに安心快適にサイクリングを楽しんでもらえるよう、サイクリスト支援体制の整備を進めるとともに、令和2年3月に全線開通する白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコースを含むとっとり横断サイクリングルート(仮称)及び鳥取岡山接続サイクリングルート(仮称)をはじめとした県内サイクリングルートの利用促進に向けた受入環境を充実させて、サイクルツーリズムの全県展開を図る。</p>
9	認知度向上の取組の改善 地域資源の認知度向上に向けて、プロのサイクリストとの定期的なイベント開催など、ファンを定着させる工夫や住民が県内外のファンと一緒に健康づくりに取り組める工夫を行う。 倉吉市のボルダリングを市民に広げ、市のシンボリックスポーツとして取り組まれる工夫を行う。同様の工夫を他の市町村においても推進する。	
10	マップづくりによる既存施設、魅力の「見える化」 ロード周辺の休憩・宿泊等の施設やヨガ等のイベント・観光地・森林浴コース・トレッキングコースなど楽しみながら健康増進できる情報を掲載したマップを作成し、利用者の利便性や意欲の向上を図るとともに、見える化により認知度向上にもつなげる。	
11	ポケモンGOの慎重な活用 ゲームアプリ「ポケモンGO」の健康づくりへの活用は、特に高齢者の安全性など否定的な意見もあり、慎重な対応が望まれる。そのため、活用にあたっては、鳥取砂丘など交通への支障が少ない場所における定期的なイベント開催などで、県民の愛好者の定着や習慣化に向けた工夫を行う。	
【改善策④】「歩く」「自転車」をライフスタイルに組み込む仕掛け		

12	各自の健康増進に向けた意識の形成	健康増進に向けて「歩く」、「自転車に乗る」ことが大切であるといった意識形成を図る必要がある、10分圏内は歩くことや一日30分以上歩くことなどの習慣付けに向けて、各自が歩く（自転車に乗る）楽しみや目標、コース等を設定できる工夫が必要である。	<p>■ココカラげんき鳥取県推進事業 あるくと健康！うごく元気！キャンペーン(とっとり健康ポイント事業) 予算額:6,080千円(再掲) 「スポトピアとっとり推進事業」と連携し、自らの日々の活動がポイント化・ランキング化されることにより、楽しみながら継続的に活動できるよう事業の拡充を図る。</p>
13	意欲向上に向けたハード・ソフト整備	誰もが安心して利用できるよう歩道等の改修・整備を推進するとともに、アプリを活用した歩数競争やマイル制度、徒歩や自転車の人に対する優遇制度、ウォーキング指導員制度等を整備して意欲向上を図る。	<p>■スポトピアとっとり推進事業 予算額:2,621千円(再掲) 新たにスポーツ・運動に取り組みたい方を対象に、運動要素を取り入れたライフスタイルの推奨、誰でも参加しやすいスポーツ・運動の場の提供、とっとり健康ポイントの活用促進等を図る。</p>
14	年齢に応じた政策の推進	年齢・年代によりライフスタイル等が異なることを考慮して、健康増進に向けた政策も年齢・年代に応じて行う。	
15	公共交通の活用による徒歩・自転車の促進	公共交通機関と徒歩・自転車を組み合わせた移動を天気の良い日に行うなど、無理のない範囲での徒歩・自転車での移動を日常に取り入れる工夫を行う。	<p>■自転車ではじめる新たなライフスタイル推進事業 計上額:1,173千円(新規) 「鳥取県自転車活用推進アクションプログラム」の幅広い普及を図ると共に、県民の自転車に対する意識・関心を高め、自転車を楽しむきっかけ作りを推進することにより、日常生活における自転車の活用機運の醸成を図る。 また、自転車通勤へのチャレンジを通じて、運動習慣の定着と通勤時の自転車利用を促進し、従業員の自転車通勤の拡大に取り組む事業所を支援する。</p>
【改善策⑤】健康と食について			
16	健康と食の検証	鳥取県の食文化を多くの人に健康増進にも活用してもらうためには、健康によいとされる食材、メニュー等が本当に健康増進に資するものなのかをしっかりと検証し、その根拠を広く示す必要がある。	<p>■キラリと光る食育推進活動事業 予算額:5,387千円(継続) 「健康づくり文化創造プラン」に定める栄養・食生活分野及び「食のみやことっとり～食育プラン～」に掲げる目標を達成するため、関係者の育成・連携強化、取組への助成、食環境の整備等を行う。</p>
17	鳥取の食文化としてのカレー、コーヒーの活用	減塩や必要な量の野菜摂取などにつながる体にいいカレーを開発し、これを鳥取県カレーとして提案したり、コーヒーの健康にいい飲み方等を提案するなどして、健康と食を意識するきっかけづくりを行う。	
18	健康によい食の推進・宣伝	鳥取県の食材を使った健康によい料理をコンテスト等を通じて開発し、レシピ集にまとめて「つくれば」などSNSで情報発信をするほか、健康に配慮した飲食店の認定や野菜産地等の収穫ツアーなどで「見える化」し、健康食の推進・宣伝を行う。併せて、大手スーパーでも直売所価格で地元の野菜等が購入できる仕組みをつくるなど、地元の旬の野菜や豊富な鮮魚等の摂取を推進する。	